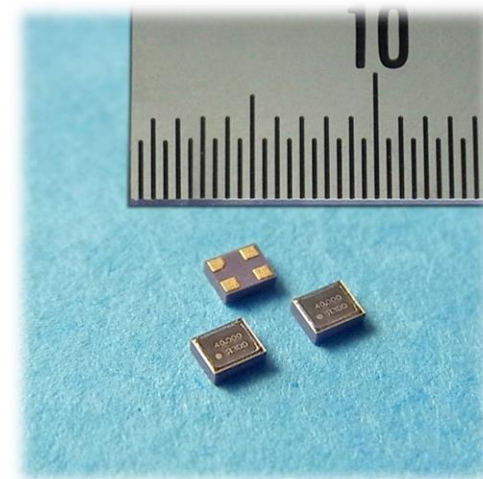


2014年3月期
第2四半期
決算説明会

2013年12月4日

リバーエレクトック株式会社



－40～＋85℃の動作温度範囲において、狭周波数許容偏差に対応可能な水晶発振器「FCXO-06T」



1. 2014年3月期 第2四半期決算概要

取締役総務本部長 高保 譲治

2. 2014年3月期 通期業績予想

3. 2014年3月期の成長戦略

代表取締役社長 若尾 富士男



第2四半期決算概要

➤ 売上高

スマートフォン・無線モジュール向けの受注が好調

➤ 損益

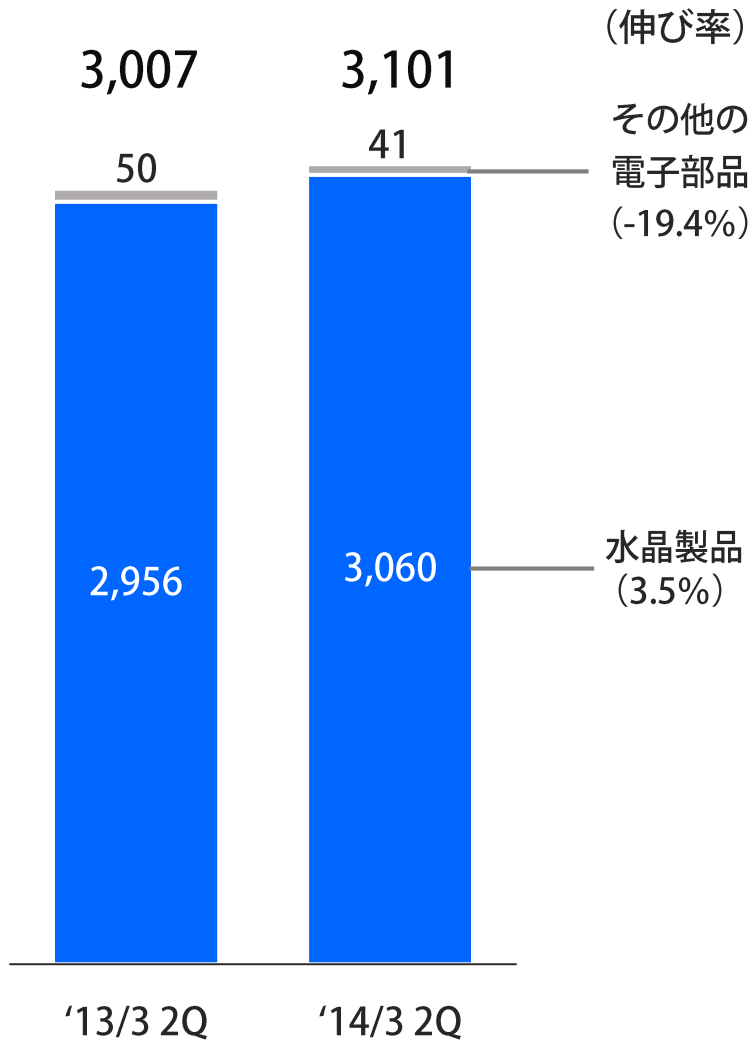
PC及びデジカメ市場低迷による販売数量減少、スマートフォン市場の競争激化による売価下落があるも為替効果が大きく、経常利益は160%アップ

(単位：百万円)

	'13/32Q 実績	'14/32Q 業績予想	'14/32Q 実績	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	3,007	3,297	3,101	94	3.1%
売上原価	2,320	—	2,402	82	3.5%
販管費	644	—	689	44	6.9%
営業利益	42	37	9	△32	-77.5%
経常利益	36	21	93	57	160.5%
四半期純利益	22	15	84	62	281.9%
為替レート (対USドル)	79.31円	93.00円	98.59円		



(単位：百万円)



水晶製品 (売上高比率98.7%)

スマートフォン・無線モジュール向けの受注が好調
平均販売価格が下落するも為替効果で相殺

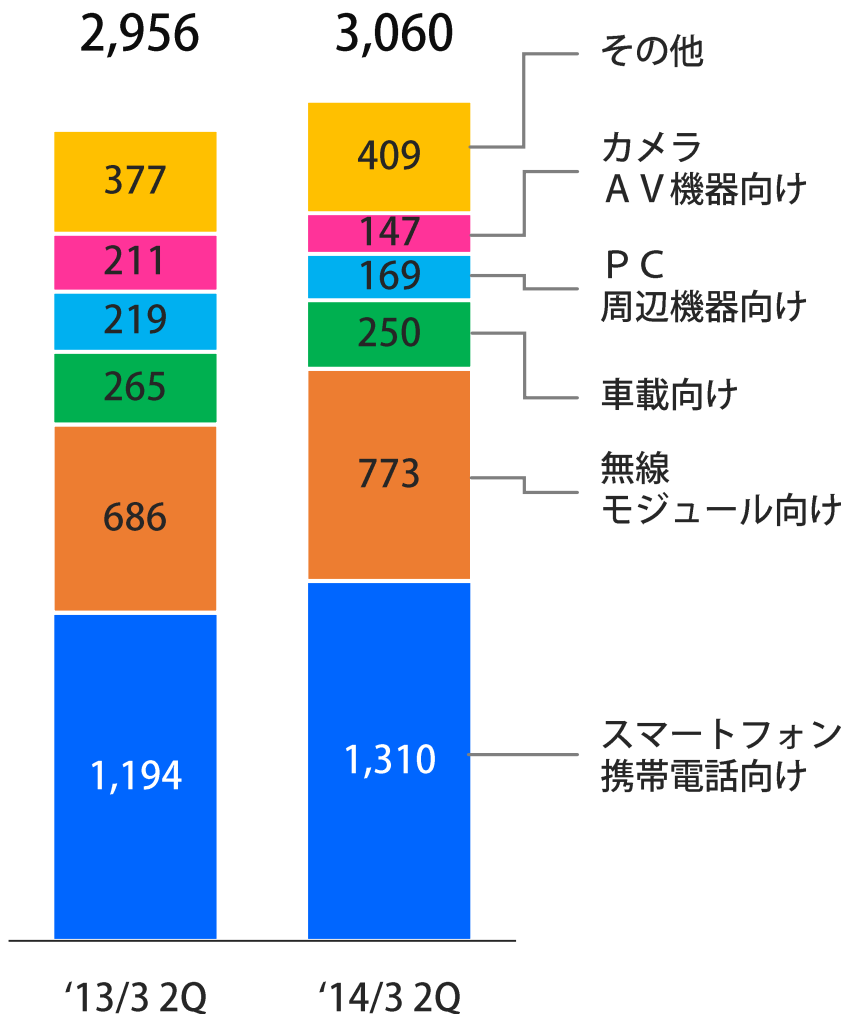


その他の電子部品 (売上高比率1.3%)

平均販売価格は上昇するも、事業縮小により販売数量が半減



(単位：百万円)



主なアプリケーションの状況

スマートフォン・携帯電話向け

無線モジュール向け

価格競争が厳しいものの、販売数量が増加

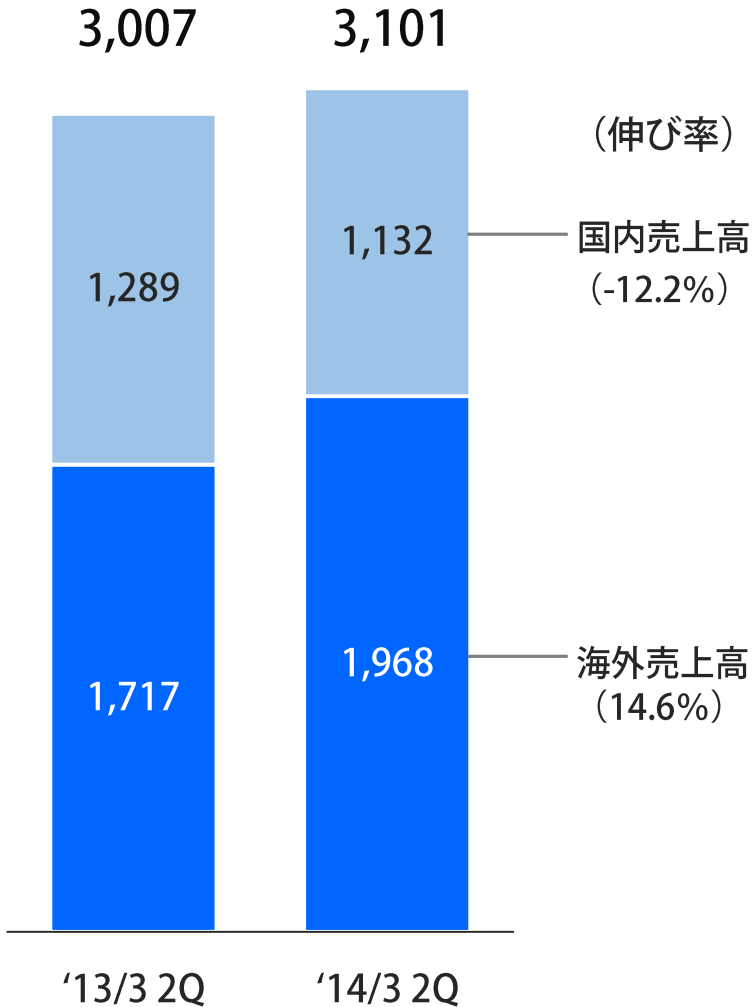
PC・周辺機器向け

カメラ・AV機器向け

市場縮小による販売数量の減少



(単位：百万円)



海外売上高 (売上高比率63.5%)

スマートフォン・無線モジュール向け
が好調に推移



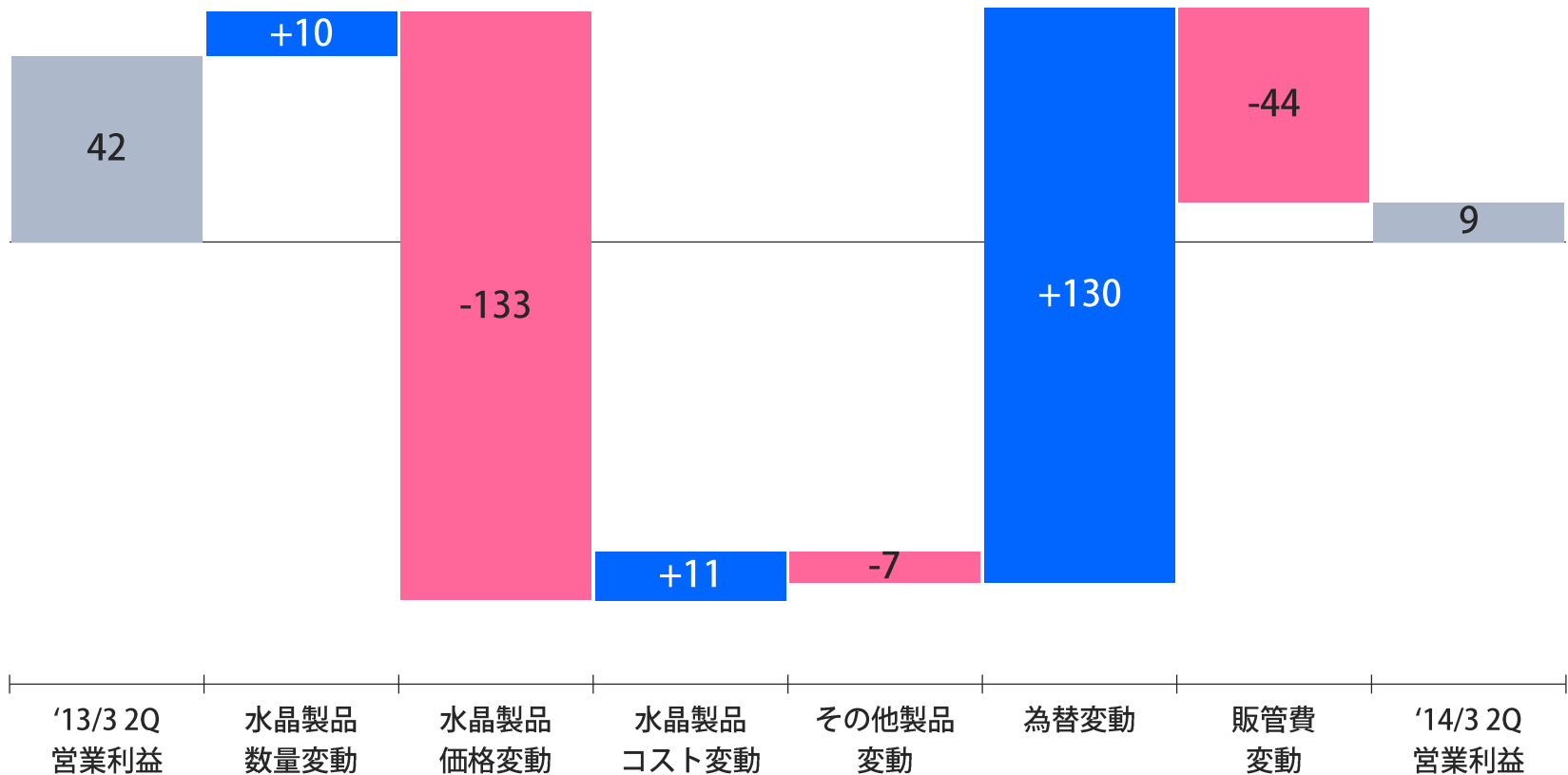
国内売上高 (売上高比率36.5%)

カメラ向けの販売が不振



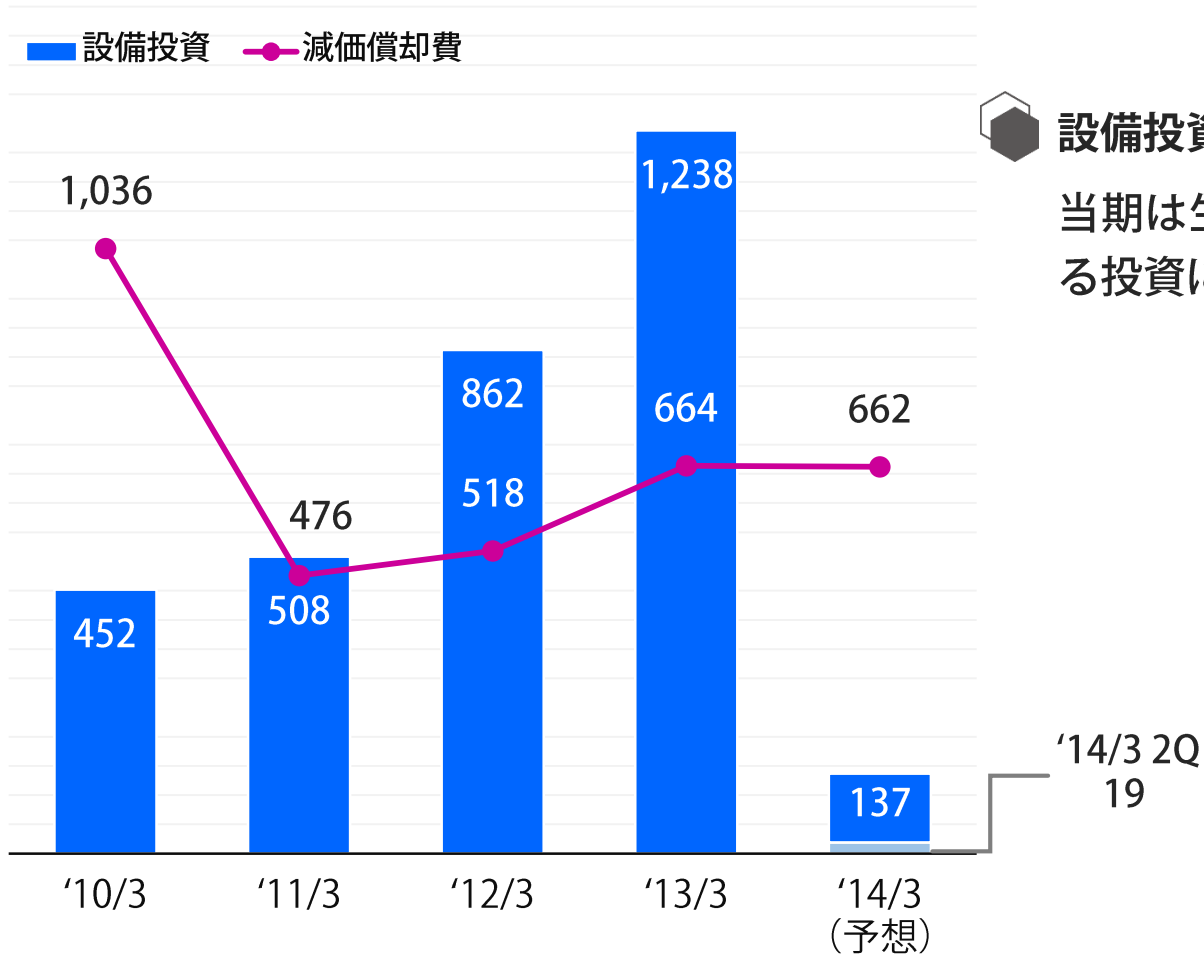
- スマートフォン・無線モジュール向けの受注が好調
- 平均販売価格が下落するも為替効果で相殺

単位：（百万円）





(単位：百万円)



設備投資

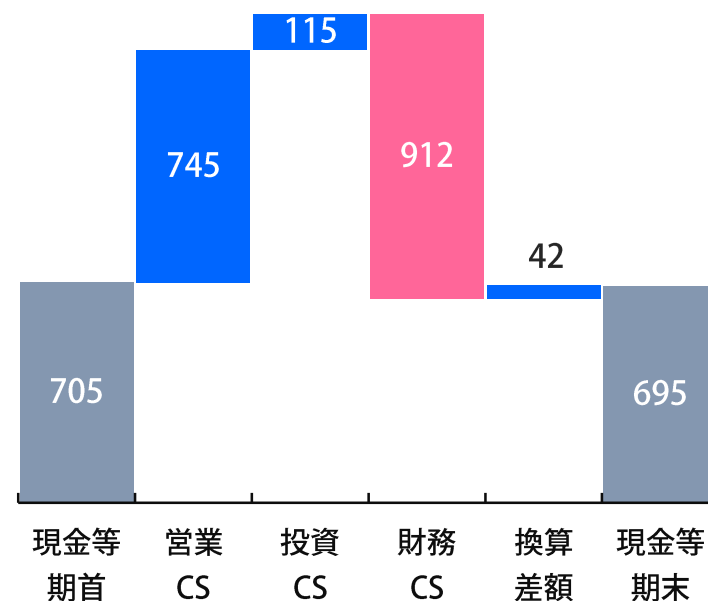
当期は生産効率化、新製品に対する投資に絞ることで、大幅に抑制



キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	'13/3 2Q	'14/3 2Q
税金等調整前四半期純利益	35	93
減価償却費	288	332
その他の営業活動	67	319
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	391	745
有形固定資産の取得及び売却	△627	△9
その他の投資活動	59	125
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△567	115
フリーキャッシュ・フロー (I+II)	△175	860
有利子負債の純増減額	396	△809
その他の財務活動	△45	△102
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	350	△912
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	42
現金及び現金同等物の増減額	181	△9
現金及び現金同等物の期首残高	690	705
現金及び現金同等物の四半期末残高	872	695

(単位：百万円)



2014年3月期 通期業績予想

および2014年3月期の成長戦略

代表取締役社長 若尾 富士男



市場環境

- 世界経済は回復基調にあるものの、新興国景気に減速感
- スマートフォン需要は中国向け、ローエンドモデルがけん引するも低価格化が進み、成長鈍化傾向に
- 為替は円安水準を持続



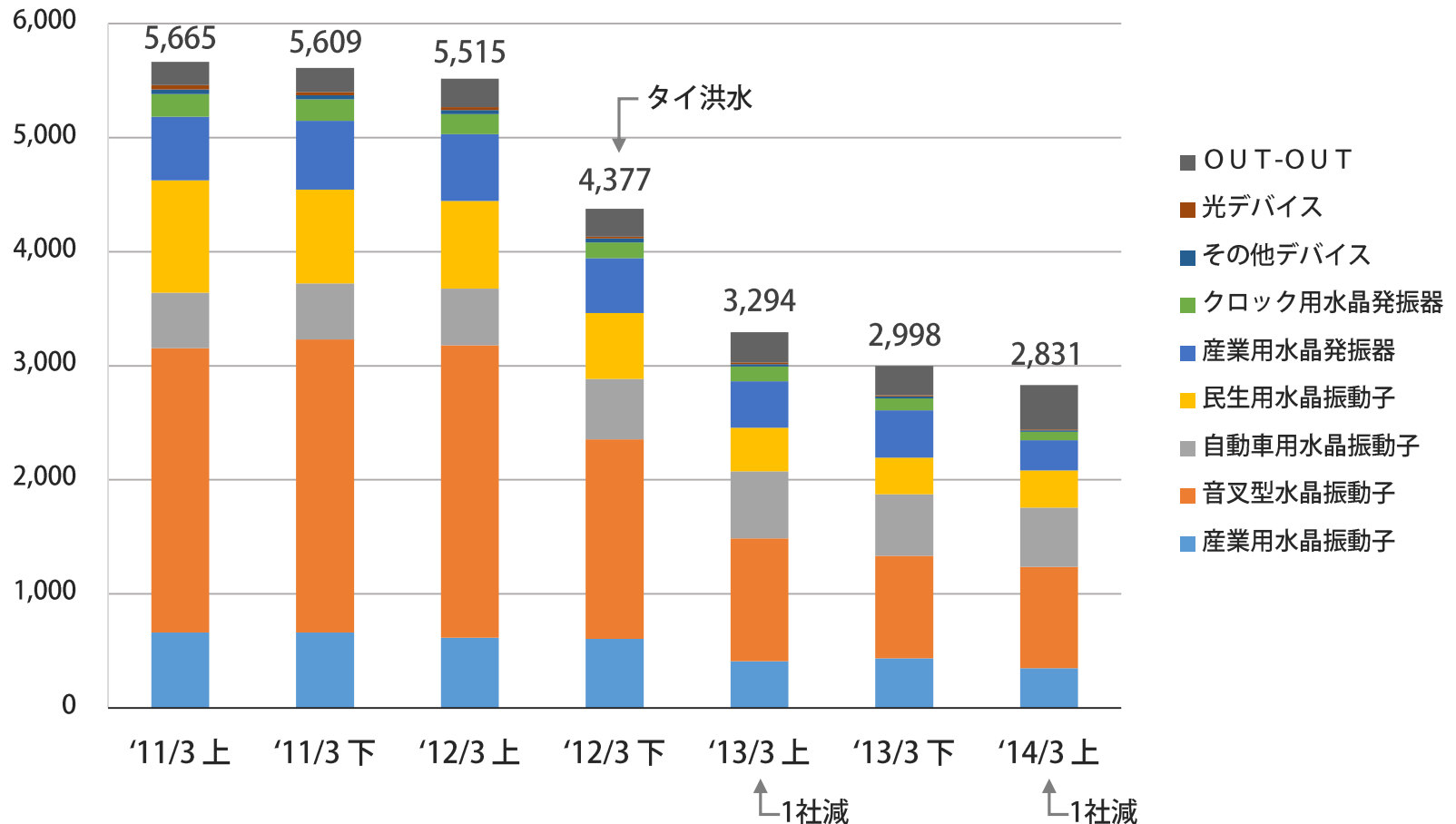
業績見通し

- 引き続きスマートフォン関連の中心の展開も、第4Q以降の生産調整等、需要見極めが困難
- 通期業績予想は据え置き



生産数量実績

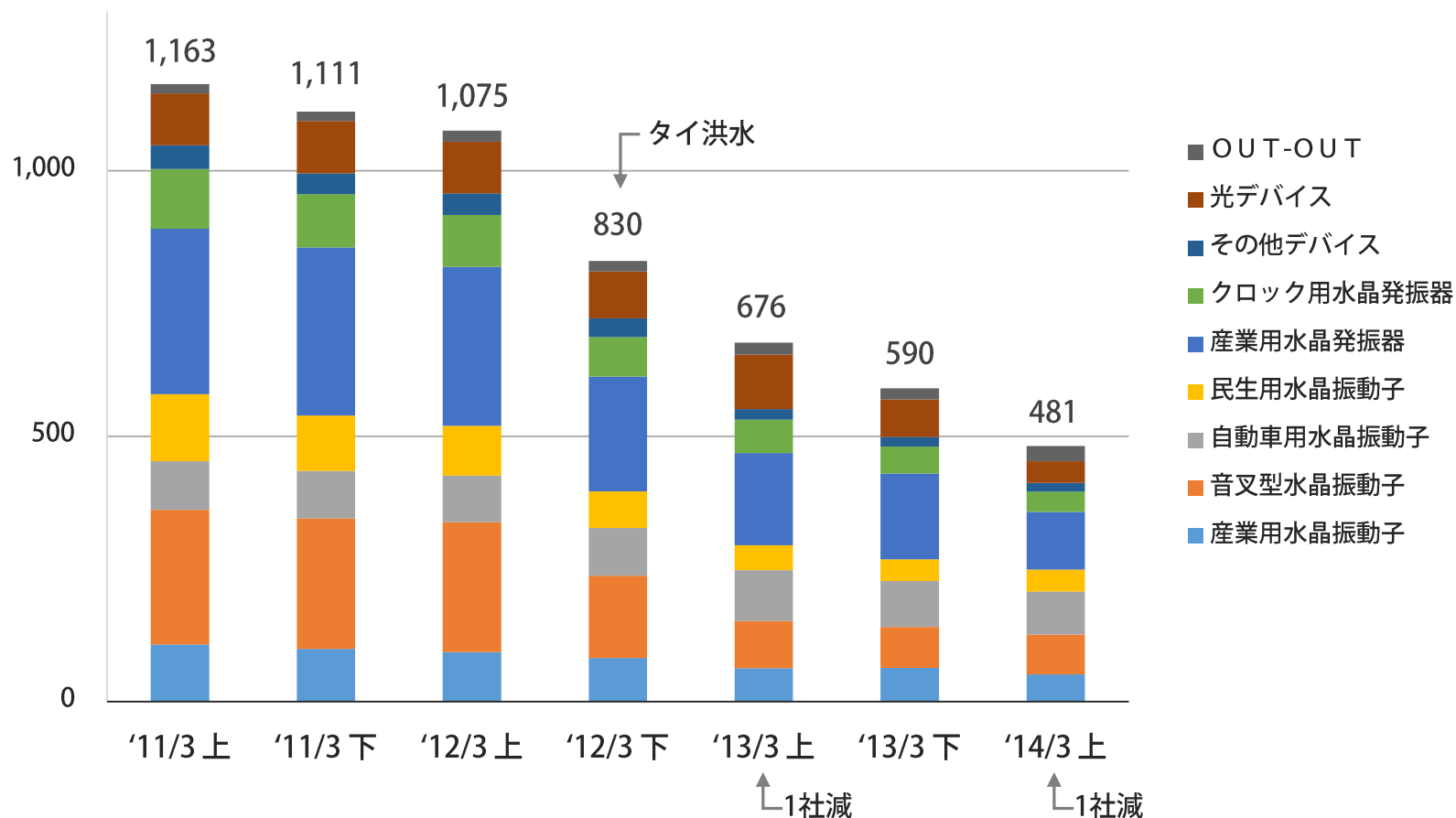
(単位：百万個)



※Q I A J 調べ、'13/3 上期及び'14/3 上期から各 1 社ずつ集計会社減

生産金額実績

(単位：億円)



※Q I A J 調べ、'13/3 上期及び'14/3 上期から各 1 社ずつ集計会社減

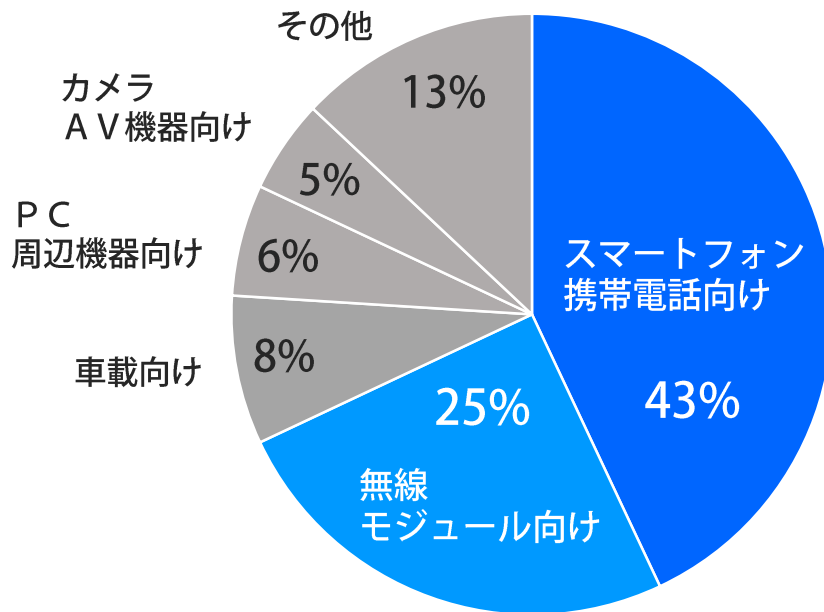


(単位：百万円)

	'13/3 実績	'14/3 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	6,208	6,806	598	9.6%
営業利益	3	118	115	—
経常利益	134	96	△38	△28.6%
四半期純利益	112	83	△28	△25.5%
EPS	15.21円	11.34円		



‘14/3 2Q アプリケーション別売上高
(水晶製品)



- 先進国のスマートフォン需要一巡化や中国メーカーの台頭によりコモディティ化が進み、スマートフォン市場は踊り場に差し掛かっている。
- スマートフォン市場に代わる新たな第2、第3の成長ドライバーの開拓が必要

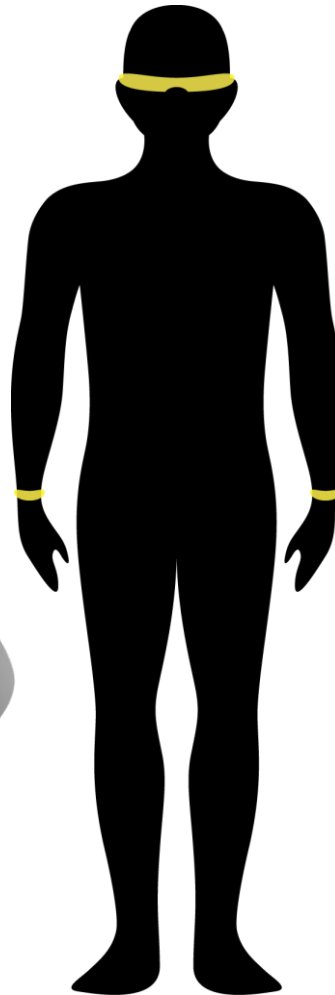


Wearable Devices :

Fitness,
Healthcare,
Entertainment,
Enterprise

主要ブランドからの大ヒット製品の登場や広範なウェアラブルコンピュータがリリースされ成功に繋がれば、2016年には1.71億デバイスに到達すると予想。
(IHS IMSリサーチ調べ)

WRISTBAND



GLASS

WATCH



電子部品の小型化、省電力化が求められている。

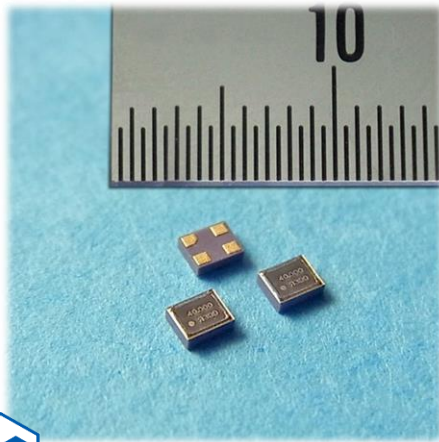
リバーの強みを生かし、競争力のある事業領域を拡大する



狭周波数偏差に対応 クロック用水晶発振器「FCXO-06T」

傾向とニーズ

- 電子機器の高性能、小型化⇒発熱量の増加⇒機器内部の温度上昇
- 無線LAN向けなどの用途においては、動作温度範囲で常に一定周波数で発振する必要がある



FCXO-06T

2.0mm×1.6mm×0.8mm max.

- -40～+85℃の動作温度内において、狭周波数偏差（±15ppm）に対応（周波数範囲2～50MHz）
- スマートフォン、タブレット端末のほか、ウェアラブルデバイス向けにも対応可能な小型設計



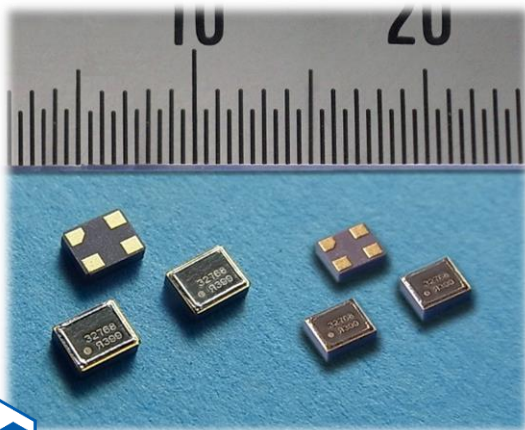
すでにサンプル出荷を開始しており、年内の量産開始を予定



過酷な温度環境下でも32.768kHz帯における高精度を実現した クロック用ATカット水晶発振器「FCXO-05C」「FCXO-06C」

傾向とニーズ

- ・ 過酷な温度環境下における高精度なクロック用水晶デバイスの需要
- ・ 音叉型水晶振動子では超高速起動や広温度範囲における狭周波数偏差に限界



FCXO-05C (左側)
2.5mm×2.0mm×0.8mm max.

FCXO-06C (右側)
2.0mm×1.6mm×0.8mm max.

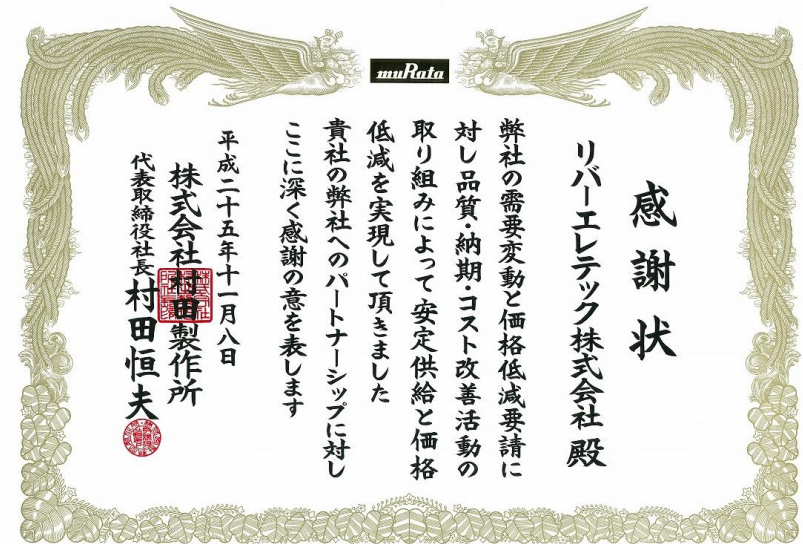
- ・ -40～+105℃の動作温度内において、狭周波数偏差（±50ppm）に対応（従来品は+85℃）
- ・ 超高速起動を実現
(FCXO-06C 0.2ms typ. FCXO-05C 0.5ms typ.)
- ・ スマートフォン等のモバイル端末、スマートメータのほか、車載、船舶、航空機等の過酷な環境下における使用を想定

すでにサンプル出荷を開始しており、
年内の量産開始を予定



村田製作所様より感謝状授与 (2013/11/08)

村田製作所様より、需要変動と価格低減要請に対し品質・納期・コスト改善活動の取り組みによって**安定供給と価格低減**を実現した当社のパートナーシップに対し感謝状が贈呈されました。





新製品化率の向上

- 当社の強みである超小型化の追求
- コア技術を活かした新機軸の製品開発

2017/3期までに新製品化率30%を目指す



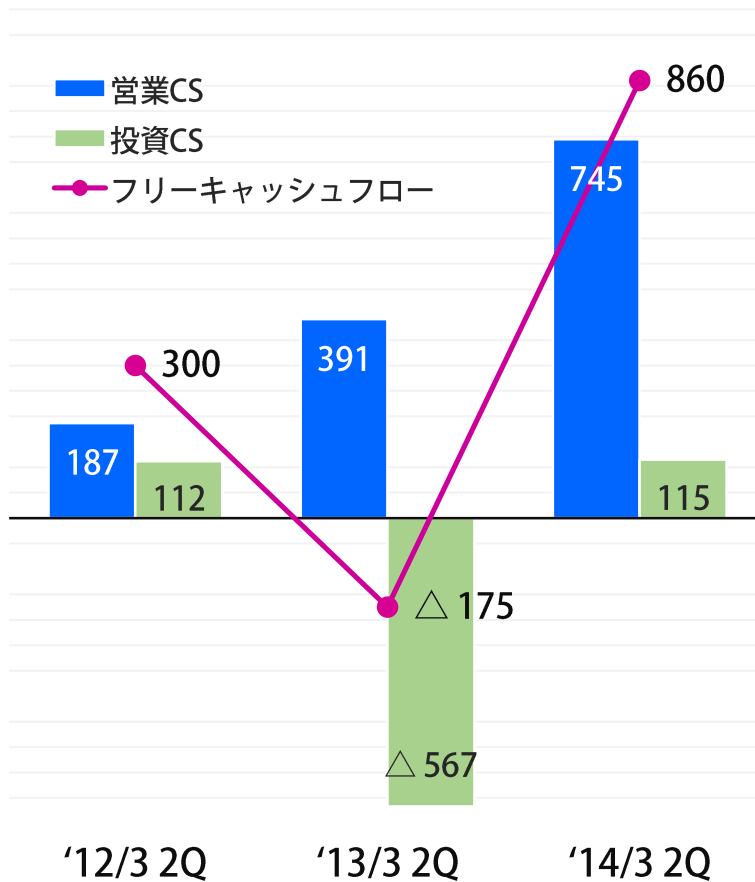
海外事業の拡大

- 中国を中心とした新興国需要の開拓を推進
- 海外における認知度を向上させ、ブランド力を強化する



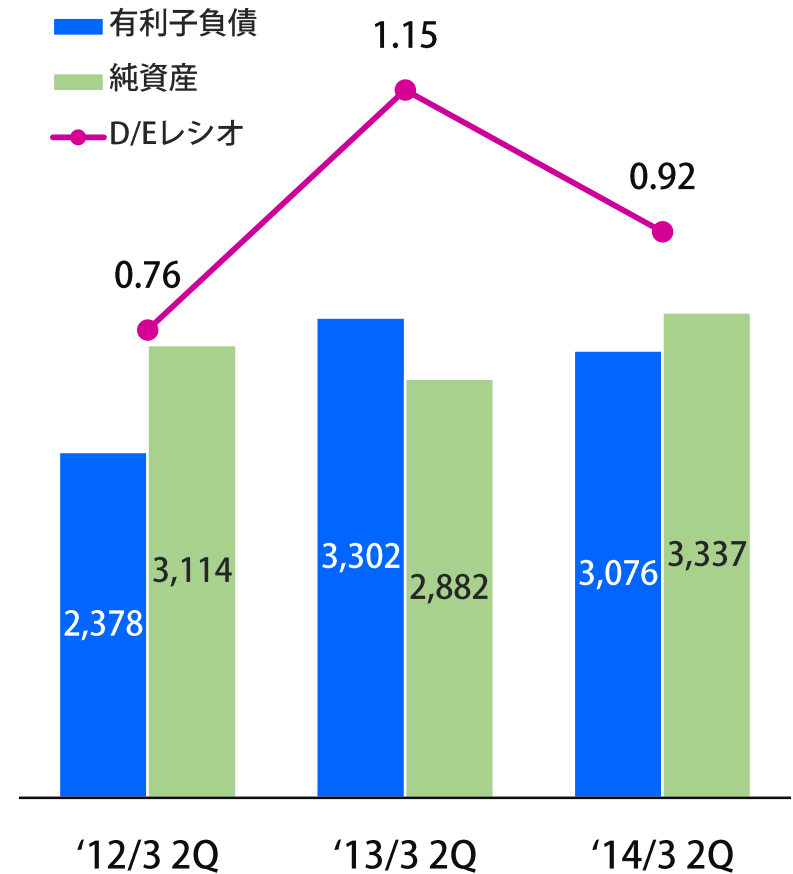
キャッシュフローの改善

(単位：百万円)



有利子負債依存度の低減

(単位：百万円、倍)





➤ 期初の公表から変更なし

	2010/3期 実 績	2011/3期 実 績	2012/3期 実 績	2013/3期 実 績	2014/3期 見通し
1株当たり配当金	—	3.00円	3.00円	3.00円	3.00円
〔うち1株当たり 中間配当金〕	—	—	(1.00円)	(1.00円)	(1.00円)
配 当 性 向 (対連結当期純利益)	—	24.4%	—	19.7%	19.6%



本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。

投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願いいたします。

I Rに関するお問い合わせ先

総務部経営企画課

<http://www.river-ele.co.jp/faq/faq03.html>